

日経225オプション取引 投資戦略ガイド 基礎編



2025年2月20日作成



三菱UFJ eスマート証券

目次

● オプション取引を始める前に	3
● 日経平均株価が上下に大きく変動すると予想する戦略	
→ロングストラドル	4
→ロングストラングル	6
● 日経平均株価の変動が小さい事を予想する戦略	
→ショートストラドル	8
→ショートストラングル	10
● オプション売りの損失を限定したい!	
→クレジット・コール・スプレッド	12
→クレジット・プット・スプレッド	14
● オプション買いの勝率を高めたい!	
→デビット・コール・スプレッド	16
→デビット・プット・スプレッド	18
● 利益を小さくしても勝率を高めたい!	
→レシオ・コール・スプレッド	20
→レシオ・プット・スプレッド	22

オプション取引をはじめる前に・・・

基礎知識

- ロング(買い)／ショート(売り)
- コール(買う権利)／プット(売る権利)
- 権利行使価格
→コールまたはプットの権利を使うときに適用される価格です
- 証拠金
→オプションの「売り建て」をする際に必要な預託金です。
- ATM(アット・ザ・マネー)
→「権利行使価格」と「原資産価格」が等しい状態にあるオプションです。
- OTM(アウト・オブ・ザ・マネー)
→「権利行使価格」が「原資産価格」に比べ、不利(本質的価値がない)なオプションです。

	概要	利益	損失	証拠金
コールの買	一定価格以上、上がると利益	無限(理論上)	限定	×
コールの売	一定価格まで上がらなければ利益	限定	無限(理論上)	○
プットの買	一定価格以上、下がると利益	無限(理論上)	限定	×
プットの売	一定価格まで、下がらなければ利益	限定	無限(理論上)	○

想定条件

- 本ガイドブックでは、日経平均株価が32000円であることを前提に説明しています。
- また、コールまたはプットの「売り建て」にかかる必要証拠金は、権利行使価格、日経平均株価の変動に関わらず、一律20万円として計算しています。
- また、取引にかかる手数料も考慮しておりません。
- 先物・オプション取引にかかる実際の手数料は下記手数料ページをご覧ください。
< https://kabu.com/cost/default.html#page_02 >

日経平均株価が上下に大きく変動すると予想する戦略

ロングストラドル

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
買いのみ	無限大 (理論上)	限定	不要	○	×

ここがポイント

株価が上下どちらかに大きく動くと利益！

- ・同じ限月で同じ権利行使価格のコールオプションとプットオプションを同時に買う戦略です。
(そのため上昇、下降の予想は必要ありません)
- ・一般的に権利行使価格はATMを選択します。
- ・日経平均株価が権利行使価格から大きく離れるほどに利益は増加していきます。
- ・最大損失はプレミアム代金の合計となります。

ロングストラドルの例

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 32000	買	1	630	630
日経平均オプション 23/11 コール 32000	買	1	650	650

ATMが32000円の場合

- ・同じ限月(11月限)で同じ権利行使価格(32000円)のプットオプションとコールオプションを同時に買います。

支払い金額 (630円+650円) × 1000倍 = 128万円

最大損失

(630円+650円) × 1000倍 = 128万円 (損失限定)

損益分岐点

上昇した場合: 33280円 (コールの権利行使価格+プレミアム代金の合計) より高ければ利益となります。

下降した場合: 30720円 (プットの権利行使価格-プレミアム代金の合計) より低ければ利益となります。

最大利益

理論上無限大となります。

日経平均株価が上下に大きく変動すると予想する戦略

ロングストラングル

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
買いのみ	無限大 (理論上)	限定	不要	○	×

ここがポイント

ロングストラドルと基本戦略は同じだが、より安いプレミアム代金でポジションを組める！！

- ・株価が大きく動くことを予想します。
- ・株価が大きく動くことを予想して、同じ限月で、権利行使価格の違うコールとプットを買う戦略です。
(そのため上昇、下降の予想は必要ありません)
- ・一般的に権利行使価格はATMから250円以上はなれた価格を選択します。
- ・日経平均株価が権利行使価格から大きく離れるほどに利益は増加していきます。
- ・最大損失はプレミアム代金の合計となります。

ロングストラングルの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 31000	買	1	295	295
日経平均オプション 23/11 コール 33000	買	1	255	255

- ・同じ限月(11月限)で異なる権利行使価格のプットオプション(31000円)とコールオプション(33000円)を同時に買います。

支払い金額 (295円+255円) × 1000倍 = 55万円

最大損失

(295円+255円) × 1000倍 = 55万円 (損失限定)

損益分岐点

上昇した場合: 33550円(コールの権利行使価格+プレミアム代金の合計)より高ければ利益となります。

下降した場合: 30450円(プットの権利行使価格-プレミアム代金の合計)より低ければ利益となります。

最大利益

理論上無限大となります。

日経平均株価の変動が小さい事を予想する戦略

ショートストラドル

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売りのみ	限定	無限大 (理論上)	必要	×	○

ここがポイント

ロングストラドルを売り買いを逆転させた株価変動が小さいことに賭ける戦略

- ・価格変動が小さいことを予想します。
- ・同じ限月で同じ権利行使価格のコールオプションとプットオプションを同時に売る戦略です。一般的に権利行使価格はATMを選択します。
- ・最大利益は受取りプレミアムに限定されます。
- ・大きく相場が変動した場合、損失となります。(無限大)

ショートストラドルの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 32000	売	1	630	630
日経平均オプション 23/11 コール 32000	売	1	650	650

- ・同じ限月(11月限)で同じ権利行使価格(32000円)のプットオプションとコールオプションを同時に売ります。

必要証拠金 (20万円) × 2 = 40万円 (売り建ての為)

最大損失

理論上無限大となります。

損益分岐点

日経平均株価が33280円超(コールの権利行使価格+受取りプレミアムの合計)および30720円未満(プットの権利行使価格-受取りプレミアム合計)で損失

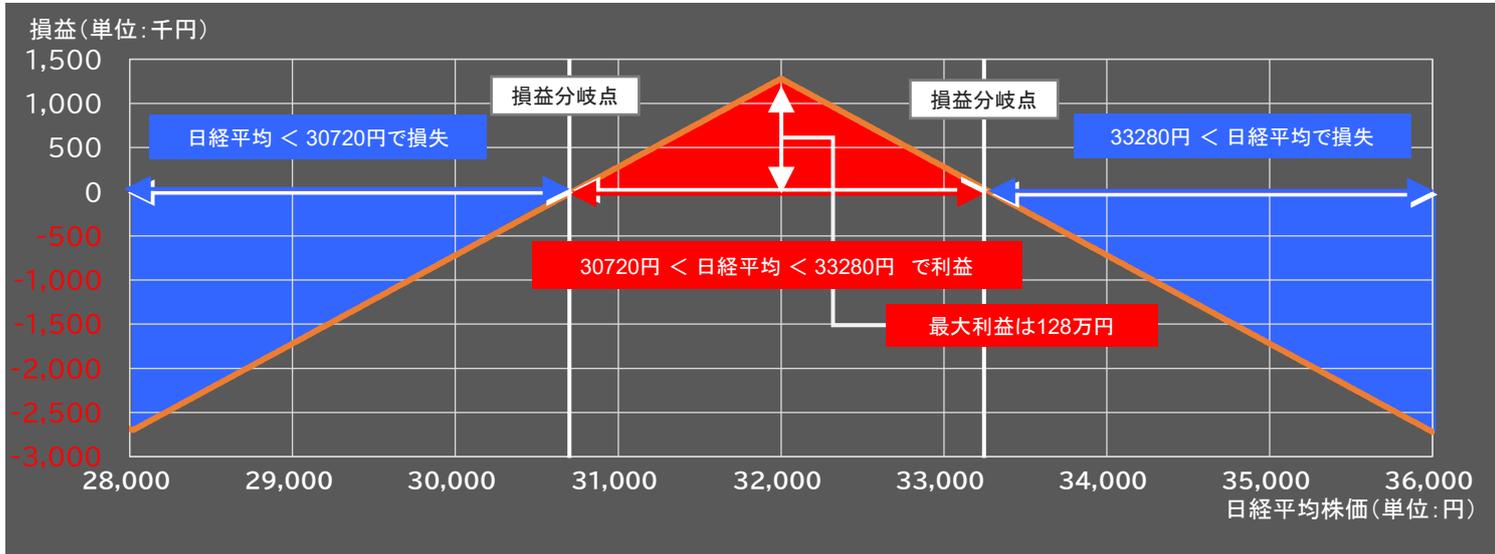
最大利益

受取りプレミアム (630円+650円) × 1000倍 = 128万円

日経平均株価の変動が小さい事を予想する戦略

ショートストラドル

<ショートストラドル戦略の損益グラフ>



日経平均株価が30720円 ~33280円で利益となります。

(「権利行使価格±受取りプレミアムの合計」)

最大利益	プレミアム代金に限定(630円+650円) × 1000倍 = 128万円
最大損失	理論上無限大
メリット	ATMを選択しているため受取りプレミアムが大きい
デメリット	損益分岐点が権利行使価格と近いため損失となる確率が高い

日経平均株価の変動が小さい事を予想する戦略

ショートストラングル

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売りのみ	限定	無限大 (理論上)	必要	×	○

ここがポイント

ショートストラドル戦略の勝率を高めたい

- ・価格変動が小さいことを予想します。
- ・同じ限月で権利行使価格の違うOTMのコールオプションとプットオプションを同時に売る戦略です。
- ・最大利益は受取りプレミアムに限定されます。
- ・大きく相場が変動した場合、損失となります。(無限大)

ショートストラングルの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 31000	売	1	295	295
日経平均オプション 23/11 コール 33000	売	1	255	255

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格31000円のプットオプションと権利行使価格33000円のコールオプションを同時に売ります。

必要証拠金 (20万円) × 2 = 40万円 (売り建ての為)

最大損失

理論上無限大となります。

損益分岐点

日経平均株価が33550円超(コールの権利行使価格+受取りプレミアム合計)、30450円未満(プットの権利行使価格-受取りプレミアム代金合計)で損失

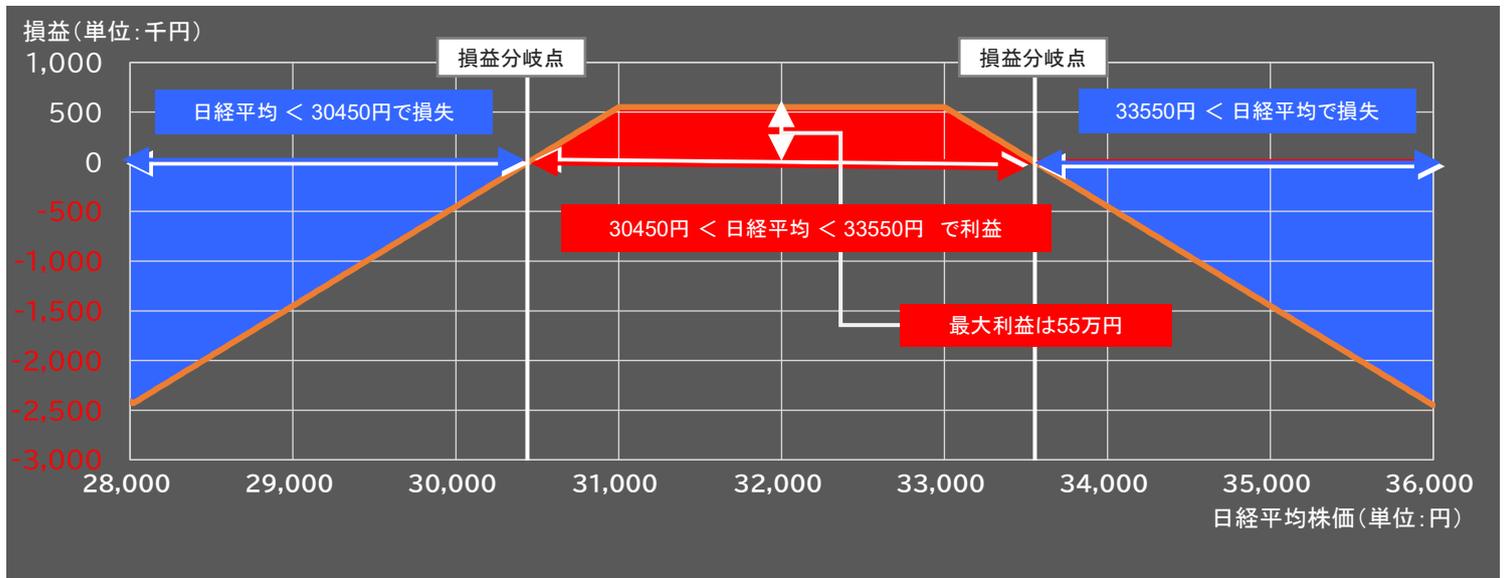
最大利益

受取りプレミアム(295円+255円) × 1000倍 = 55万円

日経平均株価の変動が小さい事を予想する戦略

ショートストラングル

<ショートストラングル戦略の損益グラフ>



日経平均株価が30450円 ~ 33550円で利益となります。

(「権利行使価格±受取りプレミアムの合計」)

最大利益	プレミアム代金に限定(295円+255円) × 1000倍 = 55万円
最大損失	理論上無限大
メリット	ショートストラドルに比べ長所は最大利益になる確率が高い
デメリット	最大利益が小さい

オプション売りの損失を限定したい

クレジット・コール・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	限定	必要	△	○

ここがポイント

保守的な売買戦略(利益も損失も限定)！

- ・権利行使価格の低いOTMを売ると同時に、同じ月限で権利行使価格の高いOTMを買います。
- ・売りがメインで買いがヘッジとなります。
- ・「売り」によって取得するプレミアムと、「買い」において支払うプレミアムの差を利益として狙います。
- ・オプションの売りのみの場合、理論上「損失無限大」という精神的負担が、売りのみの戦略に比べ、損失が限定となるので軽減されます。

クレジット・コール・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 コール 32500	売	1	440	440
日経平均オプション 23/11 コール 33000	買	1	260	260

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格32500円のコールオプションの売り1枚と権利行使価格33000円のコールオプションを同時に1枚買います。

必要証拠金 (20万円) × 1 = 20万円 (売り建ての為)

支払い金額 (260円) × 1000倍 = 26万円

最大損失

「権利行使価格の差額」-「当初のプレミアムの差額」に限定

損益分岐点

「売りつけた権利行使価格+プレミアムの差額」

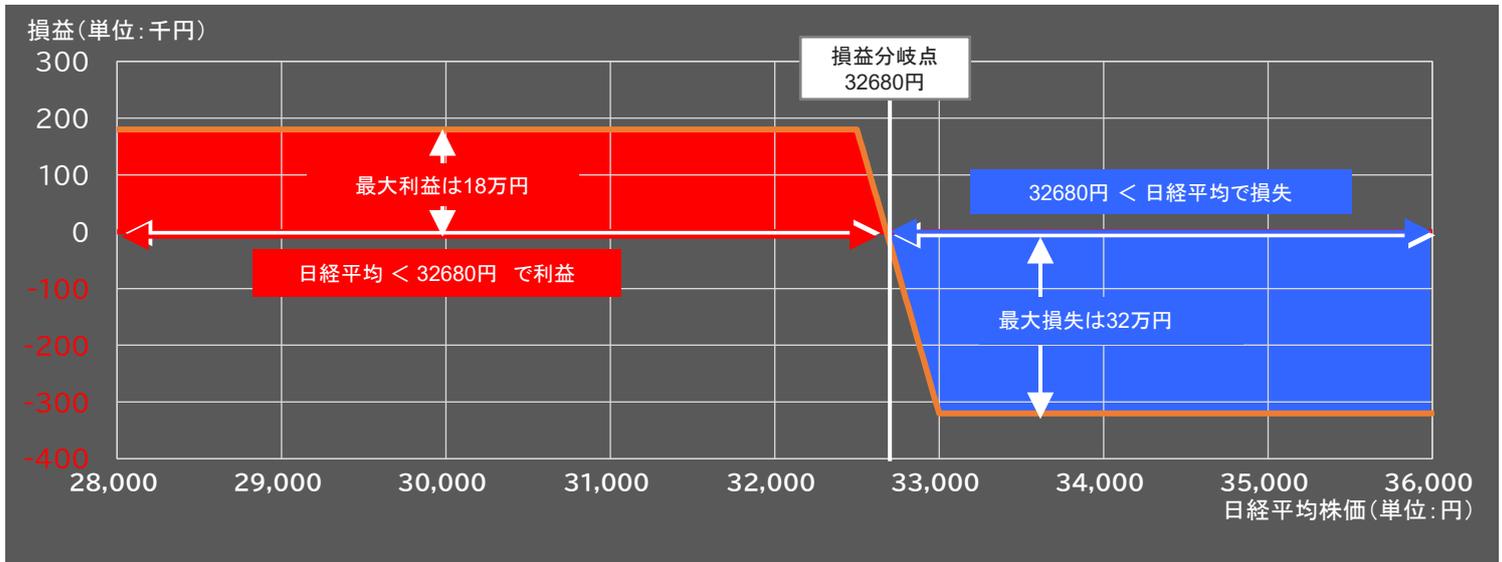
最大利益

「受取りプレミアム」-「支払いプレミアム」の差額

オプション売りの損失を限定したい

クレジット・コール・スプレッド

<クレジット・コール・スプレッド戦略の損益グラフ>



日経平均(SQ)が32500円未満で、利益はプレミアムの差額
 $(440円 - 260円) \times 1000倍 = 18万円$ 。利益限定となります。

日経平均(SQ)が33000円超で損失が「(権利行使価格の差 - プレミアムの差額) × 1000倍」
 $= 32万円$ 。損失限定となります。

最大利益	「受取りプレミアム」と「支払いプレミアム」の差額
最大損失	「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」に限定
メリット	売りのみの戦略に比べ、損失が限定となる
デメリット	相場が予想と反対に動くと損失になりやすい

オプション売りの損失を限定したい

クレジット・プット・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	限定	必要	△	○

ここがポイント

保守的な売買戦略(利益も損失も限定)!

- ・権利行使価格の低いOTMを売ると同時に、同じ限月で権利行使価格の高いOTMを買います。
- ・売りがメインで買いがヘッジとなります。
- ・「売り」によって取得するプレミアムと、「買い」において支払うプレミアムの差を利益として狙います。
- ・オプションの売りのみの場合、理論上「損失無限大」という精神的負担が、売りのみの戦略に比べ、損失が限定となるので軽減されます。

クレジット・プット・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 31500	売	1	420	420
日経平均オプション 23/11 プット 31000	買	1	310	310

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格31500円のプット・オプションの売り1枚と権利行使価格31000円のプット・オプションを同時に1枚買います。

必要証拠金 (20万円) × 1 = 20万円 (売り建ての為)
 支払い金額 (310円) × 1000倍 = 31万円

最大損失

「権利行使価格の差額」-「当初のプレミアムの差額」に限定

損益分岐点

「売りつけた権利行使価格+権利行使価格の差+プレミアムの差額」

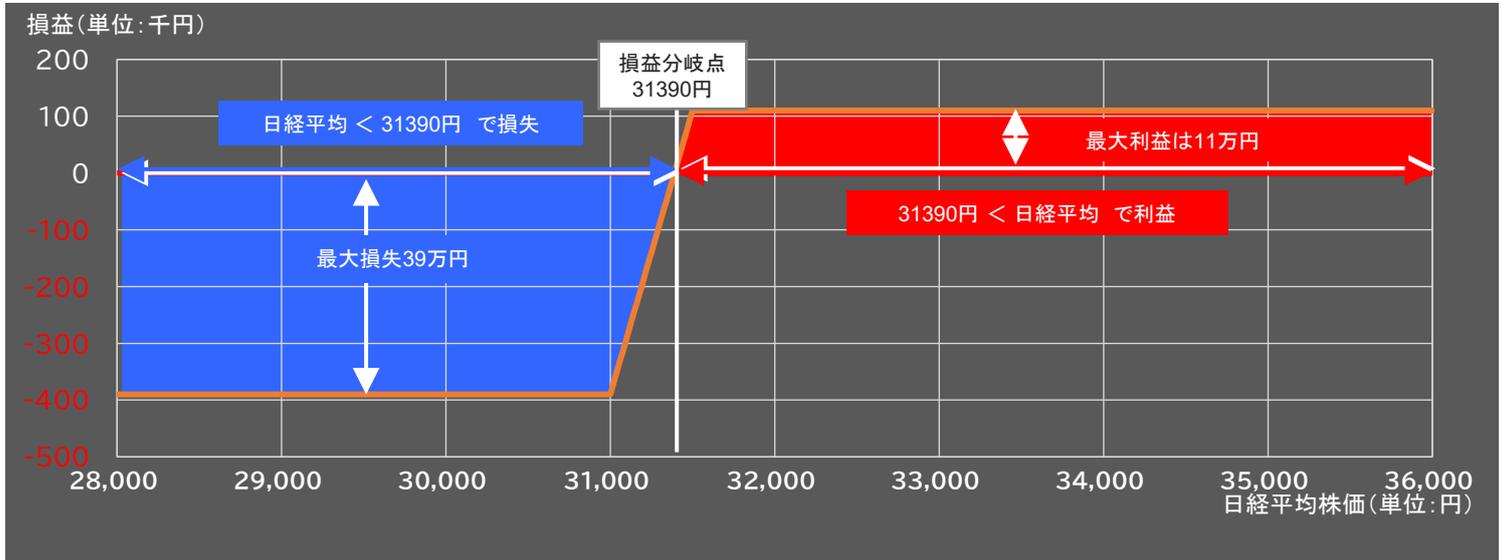
最大利益

「受取りプレミアム」-「支払いプレミアム」の差額

オプション売りの損失を限定したい

クレジット・プット・スプレッド

<クレジット・プット・スプレッド戦略の損益グラフ>



日経平均(SQ)が31500円超で、利益はプレミアムの差額
 $(420円 - 310円) \times 1000倍 = 11万円$ 。利益限定

日経平均(SQ)が31000円未満で損失が「(権利行使価格の差 - プレミアムの差額)
 $\times 1000倍$ 」の39万円。損失限定

最大利益	「受取りプレミアム」-「支払いプレミアム」の差額
最大損失	「権利行使価格の差額」-当初のプレミアムの差額に限定
メリット	売りのみの戦略に比べ、損失が限定となる
デメリット	相場が予想と反対に動くと損失になりやすい

オプション買いの勝率を高めたい

デビット・コール・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	限定	必要	△	△

ここがポイント

単純なコールの買いに比べて、勝率が高くなります。

- ・相場の上昇を予想する場合、コールを買い、さらにOTMのコールを同量だけ売ります。
- ・OTMのオプションを売ることにより、オプションの購入代金を軽減し、利益を狙う戦略です。
- ・オプションの買いが主軸となります。
- ・オプションの買い手の特徴である利益無限大が利益限定となってしまいます。

デビット・コール・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 コール 32500	買	1	410	410
日経平均オプション 23/11 コール 33000	売	1	240	240

・同じ限月(11月限)で、権利行使価格32500円のコール・オプションの買い1枚と権利行使価格33000円のコール・オプションを同時に1枚売ります。

必要証拠金 (20万円) × 1 = 20万円 (売り建ての為)
支払い金額 (410円) × 1000倍 = 41万円

最大損失

「支払いプレミアム」-「受取りプレミアム」の差額

損益分岐点

「買付けた権利行使価格+プレミアムの差額」

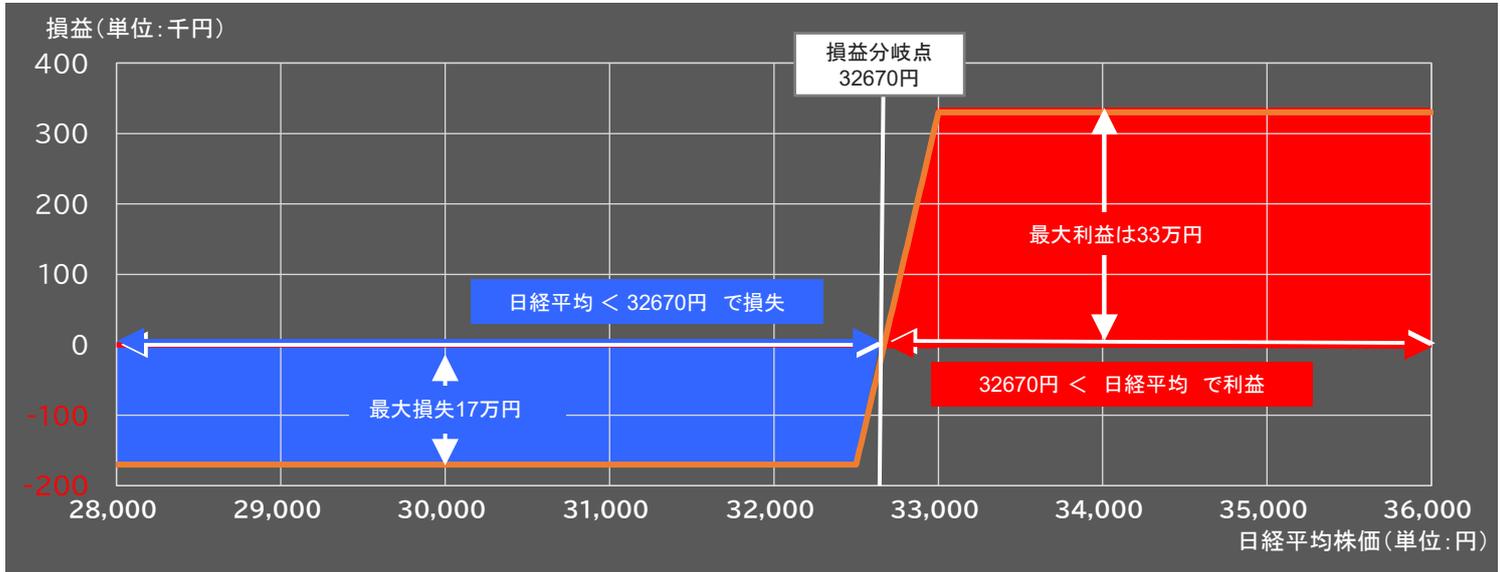
最大利益

「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」

オプション買いの勝率を高めたい

デビット・コール・スプレッド

＜デビット・コール・スプレッド戦略の損益グラフ＞



日経平均株価が33000円超で(「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」)33万円。利益限定。

32500円未満でプレミアムの差額、17万円が損失(限定)

最大利益	「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」
大損失	「支払いプレミアム」-「受取りプレミアム」の差額
メリット	買い手の損失額を軽減できる
デメリット	オプションの買い手の特徴である利益無限大が利益限定となる

オプション買いの勝率を高めたい

デビット・プット・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	限定	必要	△	△

ここがポイント

単純なプットの買いに比べて、勝率が高い！

- ・相場下落を予想する場合、プットを買い、さらにOTMのプットを同量だけ売ります。
- ・OTMのオプションを売ることにより、オプションの購入プレミアム代金を低減し、利益を狙う戦略です。
- ・オプションの買いが主軸となります。
- ・デメリットはオプションの買い手の特徴である利益無限大が利益限定となってしまいます。

デビット・プット・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 31500	買	1	450	450
日経平均オプション 23/11 プット 31000	売	1	300	300

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格31500円のプットオプションの買い1枚と権利行使価格31000円のプットオプションを同時に1枚売ります。

必要証拠金 (20万円) × 1 = 20万円 (売り建ての為)
 支払い金額 (450円) × 1000倍 = 45万円

最大損失

「支払いプレミアム」-「受取りプレミアム」の差額損益

損益分岐点

「買付けた権利行使価格 - プレミアムの差額」

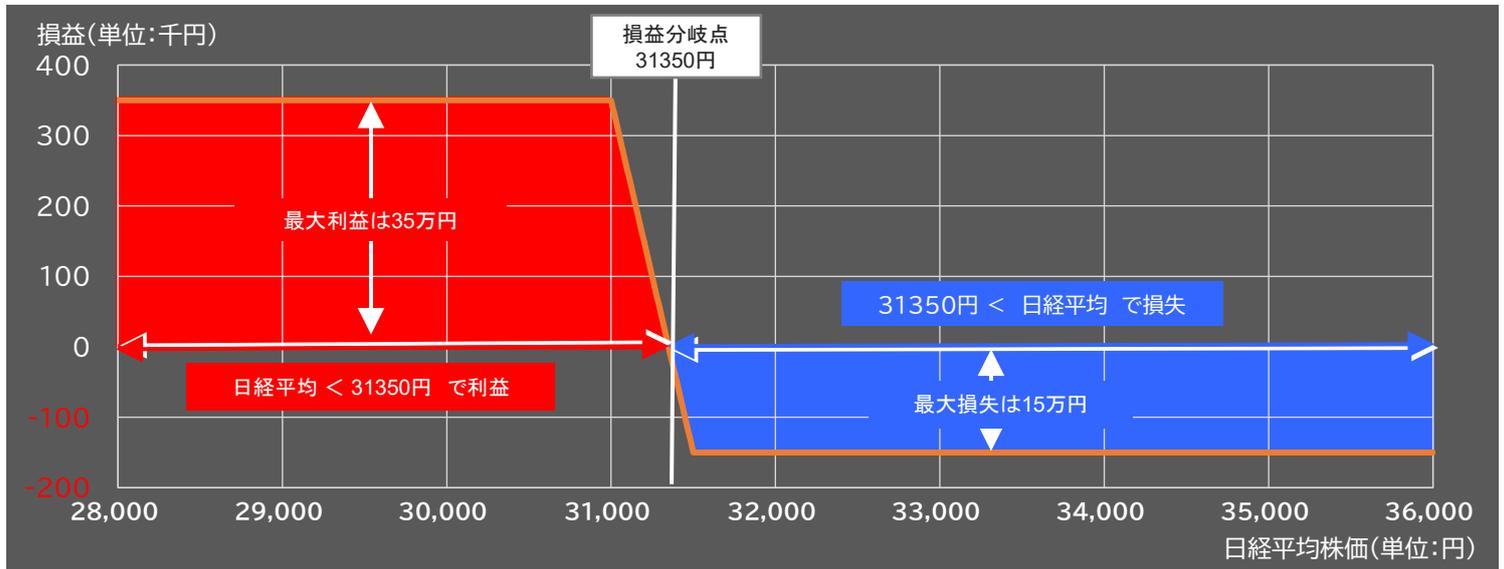
最大利益

「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」

オプション買いの勝率を高めたい

デビット・プット・スプレッド

＜デビット・プット・スプレッドの戦略の損益グラフ＞



日経平均株価が31000円未満で(「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」)35万円。利益限定。

31500円超でプレミアムの差額、15万円が損失(限定)

最大利益	「権利行使価格の差額」-「プレミアムの差額」
最大損失	「支払いプレミアム」-「受取りプレミアム」の差額
メリット	買い手の損失額を軽減できる
デメリット	オプションの買い手の特徴である利益無限大が利益限定となる

利益を小さくしても勝率を高めたい

レシオ・コール・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	無限大 (理論上)	必要	△	△

ここがポイント

日経平均株価が一定以上になれば利益になるが、利益は小さい

- ・OTMのコールオプションを買うと同時に、さらにOTMのコールオプションを複数枚売ります。
- ・受取るプレミアムのほうが大きいポジションをとります。
- ・日経平均株価が一定価格以上にならないが、買いの権利行使価格以下だと、「受取りプレミアム-購入 プレミアム」分の利益です。
- ・勝率が高いというよりは負けにくい戦略です。

レシオ・コール・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)
日経平均オプション 23/11 コール 32500	買	1	390
日経平均オプション 23/11 コール 33000	売	2	240

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格32500円のコールオプションの買い1枚と権利行使価格33000円のコールオプションを同時に2枚売ります。

必要証拠金 (20万円) × 2 = 40万円 (売り建ての為)
支払い金額 (390円) × 1000倍 = 39万円

最大損失

理論上無限大となります。

損益分岐点

「売りつけた権利行使価格+権利行使価格の差+プレミアムの差額」

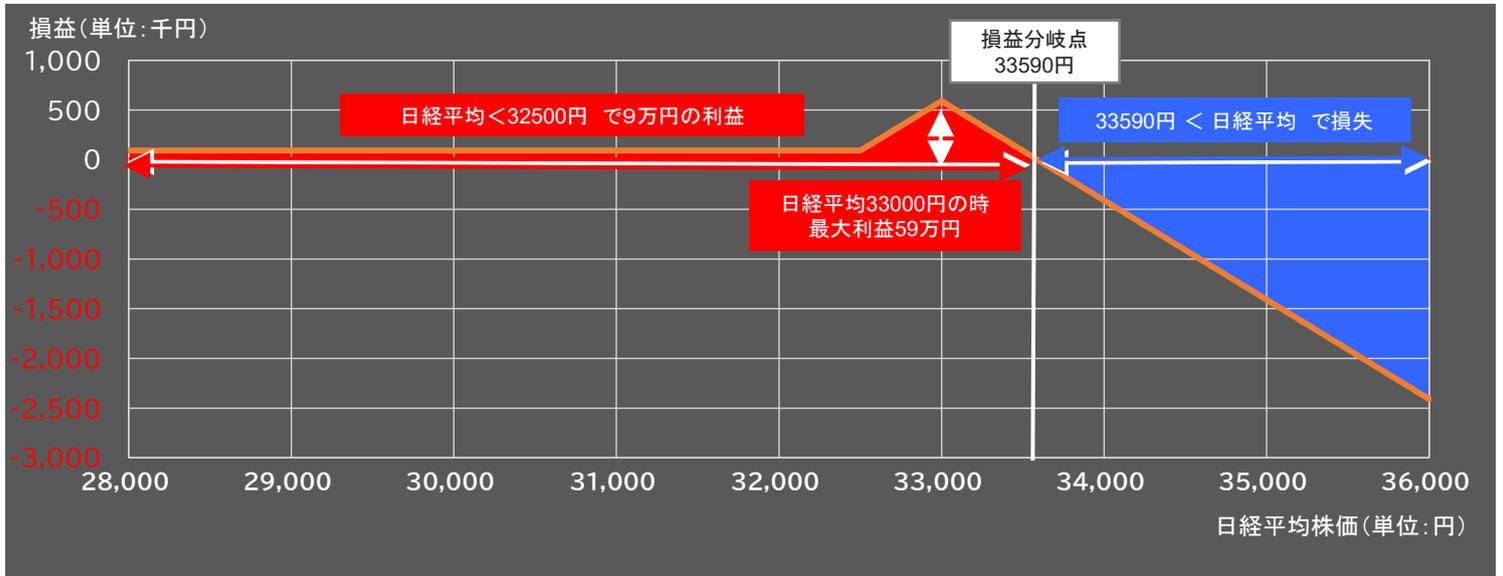
最大利益

日経平均株価が売りポジションの権利行使価格のとき、「買いポジションの権利行使価格による利益-買いプレミアム+売りポジションの受取り利益」が最大利益

利益を小さくしても勝率を高めたい

レシオ・コール・スプレッド

<レシオ・コール・スプレッド戦略の損益グラフ>



日経平均株価が32500円未満だと利益は9万円($(240円 \times 2 - 390円) \times 1000倍$)。

利益が最大となるのは、日経平均株価が33000円のと看で、最大利益は59万円。

日経平均株価が33000円超だと、徐々に利益が減ります。

33590円「売りつけた権利行使価格+権利行使価格の差+プレミアムの差額」でゼロとなり、そこからは損失となります。(損失無限大)

最大利益	日経平均株価が売りポジションの権利行使価格のとき、「買いポジションの権利行使価格による利益－買いプレミアム+売りポジションの受取り利益」が最大利益
最大損失	理論上無限大
メリット	利益になる確率が高い、売りのみに比べて必要証拠金が安い
デメリット	日経平均株価が買いの権利行使価格に届かない場合、利益が小さい

利益を小さくしても勝率を高めたい

レシオ・プット・スプレッド

売買	利益	損失	証拠金	変動制 (大)	変動制 (小)
売り・買い	限定	無限大 (理論上)	必要	△	△

ここがポイント

日経平均株価が一定以上にならないと利益になるが、利益は小さい

- ・OTMのプットオプションを買うと同時に、さらにOTMのプットオプションを複数枚売ります。
- ・受取るプレミアムのほうが大きいポジションをとります。
- ・日経平均株価が一定価格以下にならないと利益にならないが、買いの権利行使価格以下だと、「受取りプレミアム－購入プレミアム」分の利益です。
- ・勝率が高いというよりは負けにくい戦略です。

レシオ・プット・スプレッドの例

ATMが32000円の場合

銘柄	売買	数量	価格 (円)	現在値 (円)
日経平均オプション 23/11 プット 31500	買	1	450	450
日経平均オプション 23/11 プット 31000	売	2	300	300

- ・同じ限月(11月限)で、権利行使価格31500円のプットオプションの買い1枚と権利行使価格31000円のプットオプションを同時に2枚売ります。

必要証拠金 (20万円) × 2 = 40万円 (売り建ての為)
支払い金額 (450円) × 1000倍 = 45万円

最大損失

理論上無限大となります。

損益分岐点

「売りつけた権利行使価格+権利行使価格の差+プレミアムの差額」

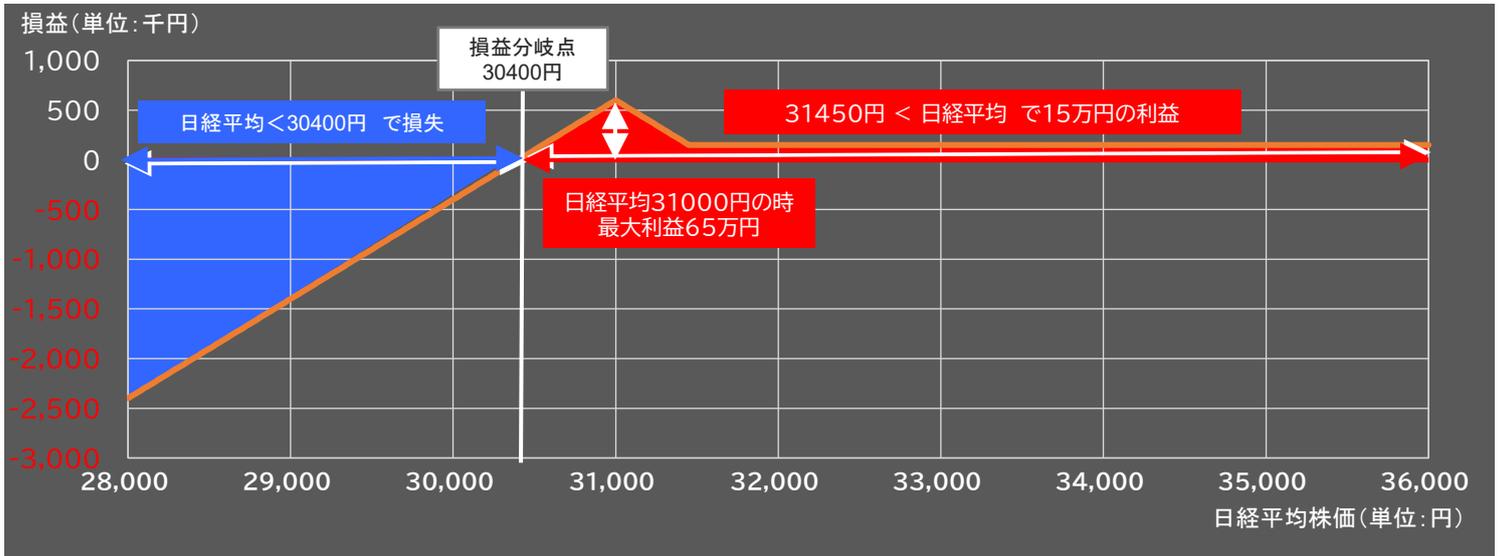
最大利益

日経平均株価が売りポジションの権利行使価格のとき、「買いポジションの権利行使価格による利益－買いプレミアム＋売りポジションの受取り利益」が最大利益

利益を小さくしても勝率を高めたい

レシオ・プット・スプレッド

<レシオ・プット・スプレッド戦略の損益グラフ>



日経平均株価が31450円超だと利益は15万円((300円 × 2 - 450円) × 1000倍)。
 利益が最大となるのは、日経平均株価が31000円のと看で、最大利益は65万円。日経平均株価が31000円未満だと、徐々に利益が減ります。
 30400円でゼロとなり、そこからは損失が膨らんでいきます。(損失無限大)

最大利益	日経平均株価が売りポジションの権利行使価格のと看、「買いポジションの権利行使価格による利益 - 買いプレミアム + 売りポジションの受取り利益」が最大利益
最大損失	理論上無限大
メリット	利益になる確率が高い、売りのみに比べて必要証拠金が安い
デメリット	日経平均株価が買いの権利行使価格に届かない場合、利益が小さい

【ご注意事項】

- 本ご案内は三菱UFJ eスマート証券(以下、「当社」という)で提供する投資情報ツールの利用方法や機能についてご案内するものです。収益や勝率をお約束するものではありません。実際のお取引はお客様ご自身の判断で行ってください。
- 本ご案内で使用している画面は順次見直し更新するため、実際の画面とは異なる場合があります。
- 投資情報ツールにて提供される情報は、マーケットにおける価格の表示および、過去から現在における価格情報に基づいたお客様の資産推移の表示を目的としており、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨、相場動向等の保証等をおこなうものではありません。
- 当社のお取扱商品へのご投資の際は、各商品に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。各商品等は価格の変動、金利の変動、為替の変動等により投資元本を割り込むおそれがあり、また商品等によっては投資元本を超える損失(元本超過損)が生じるおそれがあります。
- 各商品の手数料等は、商品、銘柄、取引金額、取引チャネル等により異なり多岐にわたるため、具体的な金額または計算方法を記載することができません。手数料等の詳細は、当社ホームページ(<https://kabu.com/cost/>)をご覧ください。手数料等には消費税が含まれます。
- 当社お取扱商品の手数料等およびリスクの詳細については、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、約款・規定集および当社ホームページの「ご投資にかかる手数料等およびリスクについて」(<https://kabu.com/company/info/escapeclause.html>)や取引ルール等をよくお読みの上、投資の最終決定はご自身のご判断と責任でおこなってください。
- 逆指値などの自動売買を含むすべての注文は、必ず約定するものではありません。
- 当社自動売買システムにおけるトリガー(発注条件)判定と発注は市場から送信されるデータを元に行っています。この市場から送信されるデータが遅延したり、トリガー(発注条件)判定において情報が不足する場合には自動売買が正しく機能することができません。予めご注意ください。
- 当社が提供する情報サービスや投資情報ツールの概要および詳細については当社ホームページ(<https://kabu.com/tool/>)にてご確認ください。

【重要(必ずお読みください)】

ご投資にかかる手数料等およびリスクについて

<https://kabu.com/company/info/escapeclause.html>

【商号】

三菱UFJ eスマート証券株式会社

【金融商品取引業者等の登録番号等】

関東財務局長(金商)第61号

関東財務局長(銀代)第8号

関東財務局長(電代)第18号

【加入協会】

日本証券業協会

一般社団法人 金融先物取引業協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

一般社団法人 日本STO協会

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会



三菱UFJ eスマート証券

